

旧笠山竹林寺所蔵 地藏菩薩立像

美術工芸研究室

昭和40年度中に行つた仏像納入文書の調査研究のうち、奈良県桜井市大字笠(旧式上部上郷村大字笠)にある旧笠山竹林寺所蔵(現在村管理)の地藏菩薩立像は作域も卓れ、また像内に五点の納入文書を奉籠する像で、これらによつて像の性格の一端を窺うことができるので概略を紹介する。

まず、像は像高2尺7寸3分(^正レ)の木造彩色像で、比較的落ちつきのある秀でた顔や破綻のない衣紋の彫りの調子には、これがほゞ鎌倉中期頃の作風を示すことが知れる。構造は彫眼にもかわらず頭部を耳の

第1図 地藏菩薩立像 竹林寺

前後にて矧ぎ、これを胸飾り辺にて鉢部に矧ぎつける。また本鉢は大きく前後に矧ぐほか、別に背面上半身で楕円形の矧ぎつけを施す。さらに左右両肩を別に矧ぐ。彩色は後補であるが、後記の納入文書によつても知れる通り、これは延宝年間の修理の際に施されたものとみられる。これらは粗雑でまた濃厚なため当初の彩色は殆ど認め難い。欠損部分は右手第二、三、五指を各々第二関節部分から、また左手第二、三、四、五指を第一、第二関節で欠くほか、両足先も矧ぎめて離脱し、うち左足先端部分を欠いている。持物の宝珠は欠失、また光背、台座は後補である。

次に納入文書は頭部内に奉籠されていたもので、現存するものは次の五点である。

一、結縁交名(その一)

紙本墨書(表裏) 縦 一尺六分 横 三寸三分

紙

学英 範宗 長進 有尊 真善 名門 長□ 応舜 明円 禪長
覚遍 宣慶 良遍 宴信 敬寛 識淵 章信 範恩 弁盛 義鏡
有忍

聖幸 章俊 親心 良玄 光道 慶□ 慶福 彦栄 良尊
寛成 信胤 専芸 堯塚 盛春 静恩 尋賢 俊賢 降金 仁実

門寬 実専 □敬 善心 永豪 門智 弘敬 有忍 同阿弥随仏
願西」 (以上表)

慶寛 明舜 善門 重禪 貞引(弘カ)

幸舜 慶俊 永俊 門慶

宗俊 □慶(導カ) 良玄 貞玄 永(信カ)

導成 教弁 尼阿妙 西阿 来阿

重(辨カ) 尼正智 範門 良遍 順弁

善男 諸阿弥随仏 蓮妙 西妙 聖如 (以上裏)

二、結縁交名(その二)

紙本墨書 縦 一尺四分 横 三寸五厘

玄高 覚弘 永心 塚暹 延門 勝(簡カ) □門 慶 □玄忍 □□

信 □朝弘 □尊」 栄淳 門宗 教豪 明算 実豪 □□ 慶縁 盛俊 永济 善門

方 顕理方」 教学、 聖印、 禅忍、 順瑛 順増 英 □(承カ) □春 (マ) 女幡磨 □(和カ)

家姉子 源氏 □□(導カ) 得阿 源氏女 藤原女 信阿 □阿 藤原(女カ) □阿 □阿 得阿

阿弥随仏 忍阿 惠蓮 妙阿_(和カ) 聖心 唯真 願阿 信阿 香阿 藤原女 善阿 源氏 阿弥随仏

延蓮 生蓮」

三、結縁交名(その三)

紙本墨書 縦 一尺六分 横 二寸五分

紙 旧笠山竹林寺所藏地藏菩薩立像

本仏房 発心、 心地、 □阿_(来カ) 体阿 真阿 西阿 顕阿 □阿
安阿 寿阿 真(阿カ) □阿 善阿 西阿 信阿」

讚阿 経阿 静阿 信阿 蓮妙房 蓮阿 真阿 西蓮房 念仏、
西念、 西阿 □阿 西阿 西阿 浄阿 智性房」

本阿 戒阿 大阿 蓮阿 経阿 蓮阿 勝阿 真阿 妙法房 経

阿 道阿 蓮正房 尼阿弥随 桓阿 蓮阿 鏡阿」

妙蓮 如阿 信阿 一(阿カ) 藤原姉子 一阿 父阿 盧阿 成阿
□阿 浄阿 一阿 浄阿 得阿 念阿 延命」

西蓮房 蓮阿 藤原中子 専阿 生蓮房 諸阿 西念房 専阿

大中臣仲子 浄恵房 善阿 舟治姉子 藤原(姉カ) 子 藤原姉子 藤

原姉子 弥阿_(上仁氏) 金蓮房 □□ 藤原姉子 論阿 見阿 藤原一子 繁野姉子

大(後カ) 氏 善阿 和(金カ) □子 土佐権守 宇治姉子 藤原仲子 笠

姉子 大阿 橘仲子」 生阿 藤原姉子 心阿 信阿 藤原氏 念阿 蓮阿 南賀未 □

□阿 浄蓮房 禅妙、 正阿 勝阿 尼真如 見阿 視阿」
(安カ) 房 覚阿 尼即阿 狛(俊カ) □ 勢阿 妙阿 信阿 □阿」

四、過去者交名 一紙

紙本墨書 縦 九寸五分 横 八寸二分

過去尼仏妙 過去成啓 過去成仁 過去善縁 過去俊兼

過去法花 過去弘詮 過去春命 過去経妙 過去堯仁

尼法心 藤原氏 僧成俊 僧範成 春女 長寿 徳寿

龟石丸 僧慶俊 法界衆生 成阿弥随仏 過去(得) 妙

敬寛 西大寺有恩過去帳三五
 章信 西大寺有恩過去帳三四九
 善心 西大寺有恩過去帳三五六
 円智 西大寺有恩過去帳三五六
 願西 授菩薩戒弟子交名
 善円 西大寺有恩過去帳三五五
 教介 西大寺有恩過去帳三五五
 尼正智 西大寺有恩過去帳三五五
 範円 西大寺有恩過去帳三五五
 順弁 西大寺有恩過去帳三五五
 延円 西大寺有恩過去帳三五五
 増円 西大寺有恩過去帳三五五
 玄忍 西大寺有恩過去帳三五五
 信尊 授菩薩戒弟子交名
 慶縁 授菩薩戒弟子交名
 西大寺田園日録
 (正元元・九・五)
 発心房 (西僧房合力奉加帳)
 学正記(改円)
 過去
 善縁

章信
 大仏子善円 仏師善円
 教介 尼正智
 尼正智 尼正智
 権僧正範円 前権僧正範円
 別次第三
 僧正貞
 応三九承
 久三二
 頂弁 延円
 善縁 発心尼 尼発心
 尊円 尊円

これによつてはもとより多くをいうことはできないが、(一)興福寺の高僧とみられる範宗、覚遍、範円の名が認められること、(二)一部に西大寺叡尊と関係をもつ僧が含まれること(例、「西大寺有恩過去帳」分)
 (三)同じく西大寺叡尊の建長前後頃の弟子僧が関係していること、さらに興味深いのは、四)専慶、章信など教名の僧尼が揃つて仏師善円作十

一面観音立像(東京風間庵所藏)^(註2)と地藏菩薩立像(東京堀口氏藏)^(註3)の結縁関係者であることである。いま、これらによつて像の制作時期を求めると、良遍を生駒上人信願とみるならば建長四年(一二五二)八月二十八日以前に溯り、また善縁が過去者となり得る承久三年(一二三二)以降に限定される。また結縁者の性格を右の一覧によつてみるならば、この時期の興福寺僧をはじめ、西大寺叡尊が有恩者とする僧(多くは興福寺僧か)から願西、玄忍など叡尊の比較的早い時期の授菩薩戒者に及んでいて、これらにはいわば興福寺から西大寺叡尊に關係するかなり広範囲な結縁集団が想定できる。殊に四にみられる専慶、章信などの僧尼交名の符合によつては、「善円」を仏師善円とする可能性も少くない。とすると、直ちに本像の作者を善円に比定できないにしても、少くともこの期の善円とその結縁衆僧との關係を知る一資料となり、ひいては西大寺叡尊と善円との知遇關係を窺うこともできる。これらの詳細は今後の検討に俟たねばならないが、いずれにしろ興味深い資料といえよう。

なお、笠山竹林寺は古くは良弁伝説を伝える古刹であるが沿革の詳細はわからない。しかし、中世以降は西大寺の末寺として維新の廃寺に至るまで法灯を継いでいた。^(註5)こゝに上記の納入文書をもつ本像が遺ることはなお注意されなければならないことである。

註 (長谷川 誠)

- (1) 髮際高二尺六寸 頭長四寸九分 面長三寸六分 面幅三寸二分
 面奥三寸八分 肩幅七寸七分 臂張八寸九分
- (2) 久野 健「大仏師善円とその作品」(『美術研究』二四〇号)
- (3) 前掲註(2)参照
- (4) 『招提千歳伝記』によると良遍の歿年は建長四年八月二十八日とある。
 『西大寺末寺帳』(明徳二年九月二十八日書改)、『西大寺集會引付』
- (5) 『西大寺日記』(江戸時代)等に頻出する。